

白土國ノ北邊ニ於ケル國防上ノ要請ニ應ジ之ガ対策ニ遺憾

ナキヲ期ス

二、部門別整備拡充方針トシテ特ニ考慮スベキ事項左如シ

(1) 陸運

1. 鉄道、改良ニ向シテハ幹線輸送力ノ拡充及輸送系路上ノ隘路ノ補強ヲ主トシ新線ノ建設ハ差廣リ緊急ナルモノニ止ム

2. 車輛其他鉄道特有資材ヲ整備スルト共ニ之ガ生産能力ノ増強ヲ圖ル

3. 倉庫小運送具及荷役施設整備強化特ニ荷役機械化ニ努ムト共ニ小運送業務者ノ確保ヲ圖ル

4. 陸運能力ノ強化ヲ図ル為主要道路ノ建設改良並ニ之ガ舗装ノ整備ニ努ム

5. 自動車生産能力ノ拡充ヲ図ル為自動車保有量ノ増加並ニ其ノ海外進出ニ努ムト共ニ保有量ノ増加及確保ニ必要ナル燃料対策其他適切ナル措置ヲ講ズ

(2) 海運及港湾

1. 船腹ノ充實ヲ期スル為造船能力ヲ増強シ計畫的造船ヲ行ヒ特ニ貨物船、油槽船其他ノ特殊用途船並ニ小型船舶ノ整備ヲ図ル

2. 日滿支間海上輸送力ヲ拡充強化スルト共ニ南方諸地域ニ對シ航路ノ拡充不定期配船ノ

增加ヲ圖リ併セテ對外航權ノ伸張ニ力ム

3. 各港湾ノ使命ニ應ジ重實的ニ諸施設ノ整備擴充ヲ圖リ共ニ特ニ日滿支諸港ヲ相互照應スルヤ整備ス

4. 港湾能力ノ向上ヲ圖ル為臨港鉄道其他水陸連絡施設及倉庫其他保信施設ノ整備ニ力ム

5. 港湾ニ於ケル荷役能力ノ增強ニ関シテハ特ニ解船ノ増備及荷役ノ機械化ニ努ムルト共ニ荷役勞務者ノ確保ヲ圖ル

(八) 空運

1. 航空ノ現狀並ニ之ガ軍事的使命ノ重要性ニ鑑ミ航空ノ飛躍的發展ノ期シ日滿支間連絡航空路ノ整備強化ヲ圖ルト共ニ南方諸地域ニ於ケル航空路ノ開發ニ力メ更ニ進ニテ圈外國際航空路ノ擴充ヲ期ス

2. 航空機生産能力ノ擴充ヲ圖リ優秀航空機ノ增加並ニ其ノ海外進出ニ力ム

3. 大東亞共榮圈各地域ニ於ケル航空保安施設ノ綜合的整備ヲ圖ル

(二) 通信

1. 電氣通信施設ノ整備ニ當リテハ主要幹線ノケーブル化通信方式ノ高度化等基礎的諸施設ノ增強ヲ圖リ併セテ各種電氣通信施設ノ統合調整ヲ圖ル

2. 大東亞ニ於ケル自皇國ノ自主的通信網ヲ確立スル為日滿支間連絡通信ケーブル幹線ノ完成ニ努ムルト

其南方諸地域ニ対スル通信施設、整備ヲ圖ル  
國際電氣通信施設、整備拡充ヲ圖リ對外通信連  
絡ノ確保ヲ期ス

3. 放送施設ニ関シハ日滿支ノ有機的連繫ノ下ニ之ガ  
充實ヲ圖リ特ニ有線放送並ニ對外放送施設ノ拡充強  
化ニ努ム

4. 通信機器製作ノ技術的向上ニ努メ其ノ生産能力ノ  
拡充ト機器ノ海外進出ニ努ム

(木) 氣象

觀象事業ノ現狀並ニ之ガ軍事的使命ノ重要性ニ  
鑑ミ東亞交通ノ安全ヲ期シ且軍事上ノ要求ヲ充足  
スル爲之ガ飛躍的發達ヲ圖ル

三. 交通施設ノ整備擴充ニ當リテハ特ニ防空上遺憾ナキ  
ヲ期ス

四. 交通関係技術者並ニ技能者ノ養成充足ヲ圖ル  
爲通切ナル方策ヲ講ズ

第三、交通ノ統制運用

交通各部門ノ運営ノ圓滑ヲ図ルト共ニ交通ノ綜合  
能率ノ發揮ヲ期スル爲特ニ考慮スベキ事項ト如シ  
一、日滿支交通一體化ノ要請ニ基キ自國ヲ核心トス  
ル日滿支交通ニ関スル連絡機構ノ整備ニ努ムルト  
共ニ之ヲ運営ノ連絡統合、交通資材並ニ機器ノ

規格統一等ヲ圖ル

二、計畫經濟ノ要請ニ即應シ且輸送能率ノ向上

圖心為概不在措置ヲ講ズ

(1) 適切ナル運賃政策ヲ樹立

(2) 海陸輸送分野、適正化

(3) 運輸機關ト生産配給統制機關ト緊密ニ連繫ノ保持

(4) 陸上運輸諸事業間、調整統合

(5) 船舶、集約的運航体制、確立並ニ計畫的配船、徹底化

(6) 港湾諸事業、綜合的統制

(7) 現有施設、活用特ニ遊休施設、利用、轉用

(8) 荷造包裝、改善合理化

三、大東亞共榮圈ニ於ケル白王國海運、指導的地位ヲ確

立スルノ必要ナル海運企業組織、統合ヲ圖ルト共ニ海上保險、改善ニ努ム

四、大東亞共榮圈ニ於ケル通信ノ指導的地位ヲ確保ス

ル為概不在措置ヲ講ズ

(1) 各地域ヲ一體トスル通信聯合、結成

(2) 電波統制ニ依ル無線通信安定、確保

(3) 適切ナル通信料金政策、樹立

交通政策要綱(基本國策要綱實施要綱)昭和六、三、四  
新聞發表

本要綱ニ於テハ運輸及通信並ニ之ニ關聯スル氣象ノ要綱ヲ  
定ム

第一、基本方針

高度國防國家体制ノ完成ヲ目途トシ日滿支ノ強固ナ  
ル結合ヲ根幹トスル大東亞共榮圈ヲ確立セシメ之ガ基本  
的要素タル交通ノ使命ニ鑑ミ皇國ヲ核心トスル大東亞ノ  
綜合的有機的的交通体制ヲ確立ス

交通施設ノ計畫的整備拡充ヲ圖ルト共ニ之ガ運用ノ  
統制ヲ強化ス

第二、交通施設ノ整備拡充

之ガ爲交通ニ關スル行政諸機構ノ整備統合ヲ圖ル

一、大東亞共榮圈ニ於ケル交通ノ跛行的狀態ヲ調整シ  
其ノ有機的運送ヲ促進スルト共ニ日滿支ノ交通施設ニ  
關シテハ概テ日滿支經濟建設要綱ノ定ル所ニ依ル

二、部門別整備拡充方針トシテ特ニ考慮スベキ事項左ノ如シ

(1) 陸運

1. 鐵道、改良ニ關シテハ幹線輸送力ノ拡充及輸送  
系路上ノ隘路ノ補強ヲ主トシ新線ノ建設ハ差盾  
リ緊要ナルモノニ止ム

2. 車輛其他鐵道特有資材ヲ整備スルト共ニ之  
カ生産能力ヲ增強ス

3. 倉庫、小運送具及荷役施設ノ整備強化特

Doc 1570

68

二荷役、機械化ニ努ムト共ニ小運送勞務者ノ確保ヲ圖ル

4. 陸運能力ノ強化ヲ圖ル為主要道路ノ建設、改良並ニ之ガ舗装、整備ニ努ム

5. 自動車生産能力ノ拡大ヲ圖ル為自動車保有量ノ增加並ニ其ノ海外進出ニ努ムト共ニ保有量ノ増加及確保ニ必要ナル燃料対策、他適切ナル措置ヲ講ズ

(四) 海運及港湾

1. 船塢ノ充実ヲ期スル為造船能力ヲ增強シ計畫的造船ヲ行ヒ特ニ貨物船、功槽船其ノ他ノ特殊用途船並ニ小型船舶ノ整備ヲ圖ル

2. 日滿支間海上輸送力ヲ補充強化スルト共ニ南方諸地域ニ對スル航路拡充、不定期配船ノ増加ヲ圖リ併マテ對外航權ノ伸張ニ努ム

3. 各港灣ノ使命ニ應ジ重疊的ニ諸施設、整備拡充、同ト共ニ特ニ日滿支諸港ヲ相互照應スヤウ整備

4. 港湾能力ノ向上ヲ圖ル為臨港鉄道其ノ他水陸連絡設備及倉庫其ノ他保管施設、整備ニ努ム

5. 各港灣ニ於テ其ノ荷役能力ノ增強ニ圖リテハ特ニ解船、増備及荷役、機械化ニ努ムト共ニ荷役勞務者ノ確保ヲ圖ル

(五) 空運

1. 航空ノ現狀、並ニ之ガ軍事的使用、重要性ニ鑑ミ航空ノ飛躍的発展ヲ期シ日滿支間連絡航空路ノ整備強化ヲ圖リト共ニ南方諸地域ニ於テ航空路ノ開

- 1. 航空機生産能力ノ拡大ヲ因リ優劣航空機ノ増加ニ  
其ノ海外進出ニ努ム
- 2. 大東亞共榮圈各地域ニ於ケル航空保安施設ノ綜合的  
整備ヲ因ル

(二) 通信

- 1. 電氣通信施設ノ整備ニ當リテハ主要幹線ノケーブル化  
通信方式ノ高度化等基礎的諸施設ノ増強ヲ因リ  
併ニテ各種電氣通信施設ノ統合調整ヲ因ル
- 2. 大東亞ニ於ケル自國ノ自主的通信網ヲ確立スル爲日滿  
支回連絡通信ケーブル幹線ノ完成ニ努ムト共ニ南方諸  
地域ニ對スル通信施設ノ整備ヲ因ル
- 3. 國際電氣通信施設ノ整備ノ爲ニ  
無線放送施設ノ整備ノ爲ニ  
之ガ充實ヲ因リ特ニ有線放送施設ニ對テ  
ノ充實強化ニ努ム
- 4. 通信機器製作技術的向上ニ努ム  
ノ爲ニ其ノ生産能力  
ノ拡大ニ努ム

(三) 氣象

觀象事業ノ現狀ニ之ガ軍事的重要性ニ  
鑑ミ東亞交通ノ安全ヲ期シ且軍事上ノ要求ヲ充足  
スル爲之ガ飛躍的發達ヲ因ル

三、交通施設ノ整備ノ爲ニ當リテハ特ニ防空上遺憾  
ナキヲ期ス

四、交通関係技術者ニ技能者ノ養成充足ヲ因

ル為適切ナル方策ヲ講ズ

第三、交通ノ統制運用

交通各部門、運管ノ圓滑ヲ圖ルト共ニ交通ノ綜合

能率ノ發揮ヲ期スル為特ニ考慮スベキ事項トシ、如シ

一、日滿支交通ニ一體化ノ要請ニ基キ皇國ヲ核心トシ

日滿支交通ニ關スル連絡機構、整備ニ努ムルト共ニ

之ヲ運管ノ連絡統合、交通資材並ニ機器ノ現

格統一等ヲ圖ル

二、計畫經濟ノ要請ニ即應シ且輸送能率ノ向上ヲ

圖ル為概テ左ノ措置ヲ講ズ

(一) 適切ナル運賃政策、樹立

(二) 海陸輸送分野、適正化

(三) 運輸機關ト生産配給統制機關ト緊密ナル

運繫ノ保持

(四) 陸上運輸諸事業間、調整綜合

(五) 船舶、集約的運航体制、確立並ニ計畫的

配船ノ徹底化

(六) 港灣諸事業ノ綜合的統制

(七) 現有施設ノ活用特ニ遊休施設ノ利用、轉用、

(八) 荷造包裝ノ改善合理化

三、大東亞共榮圈ニ於ケル皇國海運ノ指導的地位ヲ

確立スル為ニ要ナル海運企業組織ノ統合ヲ圖ルト

共ニ海上保險ノ改善ニ努ム

四、大東亞共榮圈ニ於ケル通信ノ指導的地位ヲ確保

スル為概テ左ノ措置ヲ講ズ



72

Doc 1570

(一) 各地域ヲ一休トスル通信聯合ヲ結成  
(二) 電波統制ニ依ル無線通信安定ヲ確保  
(三) 通切ナル通信科全政策ヲ樹立

日滿支經濟協議會設置ニ関スル件

日滿支經濟協議會設置ニ関スル件 昭和一六、二、二五  
閣議決定

農政府基本國策要綱ニ於テ日滿支ヲ一環トシ大東亞ヲ包容スル皇國  
ノ自給自足經濟ノ確立ヲ國策トシテ定メ之ニ基キ日滿支經濟建設  
要綱ヲ決定シタルガ之ガ具體化ヲ促進シ之ニ基キ日滿支綜合計畫ヲ  
行フ為、左記要領ニヨリ暫定的措置トシテ日滿支經濟協議會ヲ設置ス。

要領

一、本協議會ハ日滿支經濟建設要綱ニ基キ日滿  
支綜合計畫ヲ審議ス

二、本協議會日ハ之ヲ內閣ニ置キ日本ヲ中心トスル事實  
上ノ協議機關トス

三、會長ハ企畫院總裁ヲ以テ之ニ充テ委員ハ企畫  
院次長對滿事務局次長興亞院政務部長、  
係各省次官及滿洲國關係官ヲ以テ之ニ充ツ  
四、幹事ハ關係各廳高等官及滿洲國關係官  
ヲ以テ之ニ充ツ

幹事會ニ部會ヲ設ク

部會ニハ必要ニ應ジ臨時ノ幹事ヲ置クコトヲ得

五、本協議會ニ事務局ヲ設ケ之ヲ企畫院ニ置ク  
事務局ハ關係官廳(企畫院對滿事務局、  
興亞院、陸海軍、滿洲國等)ヨリ派遣セル職員  
ヲ以テ之ヲ構成ス

六、本協議會ニ於テ決定シタル事項ハ順序ヲ  
經テ夫々歸屬スル責任アル關係當局ニ移シ各

當局ニ於テ之カ具現ヲ圖ル  
備考

一、滿洲國關係官ハ日本側ニ協議ノ上滿洲國ニ於テ指命スル如ク措置ス  
二、現地軍關係官等ハ協議會、幹事會及部會ニ出席シ意見ヲ開陳スルコトヲ得

參考

協議會事務局所管事項ノ主ナルモノ次ノ如シ  
一、日滿支ヲ通ズル經濟開發計畫ノ設定ニ關スル事項

二、日滿支ヲ通ズル交通計畫ノ設定ニ關スル事項

三、日滿支ヲ通ズル毎年度物資勞務資金貿易交通等ノ計畫設定方針ノ樹立ニ關スル事項

四、日滿支經濟連繫上必要ナル緊急事項ノ連絡調整ニ關スル事項

五、日滿支ニ於ケル經濟建設進捗狀況ノ報告通報ニ關スル事項

日滿支經濟協議會設置ニ關スル件 (表)

No 74

曩ニ政府ハ基本國策要綱ニ於テ日滿支ヲ一環トシ大東亞ヲ包容スル皇國ノ自給自足經濟ノ確立ヲ國策トシテ定メ之ニ基キ日滿支經濟建設要綱ヲ決定シタルガ之カ具體化ヲ促進スル共ニ日滿支ノ經濟建設ニ付其ノ連絡調整ヲ行フ爲左記要領ニ依リ暫定的措置トシテ日滿支經濟

濟協議會ヲ設置ス

要領

- 一、本協議會ハ日滿支經濟建設要綱ニ基キ日滿支經濟建設ニ付其ノ調整連絡ヲ圖ル
- 二、本協議會ハ之ヲ内閣ニ置ク事實上ノ協議機關トス
- 三、會長ハ企畫院總裁ヲ以テ之ニ充テ委員ハ關係各廳次長及次官等ヲ以テ之ニ充ツ
- 四、幹事ハ關係各廳高等官等ヲ以テ之ニ充ツ
- 五、幹事會部會ヲ設ク
- 六、部會ニハ必要ニ應ジ臨時ノ幹事ヲ置クコトヲ得
- 七、本協議會ニ事務局ヲ設ケ之ヲ企畫院ニ置ク
- 八、事務局ハ關係各廳(企畫院)對滿事務局興業院陸海軍等ヨリ派遣セル職員ヲ以テ之ヲ構成ス

證明書  
フニントレ文書局第 号  
國際檢察部 第一五七〇号

典據及び公正に關する證明

余、岡田武彦ハ余が下記ノ資格ニ於テ、即チ前秘書課長(現在工政課長)トシテ日本政府ト公的関係ニ在ルモノナルコト、茲ニ該官吏トシテ余が茲ニ添附セラレタル、九十四頁ヨリ成ル、千九百四十二年/昭和十六年/四月附、下記題名、即チ基本国策要綱 企畫院ノ文書ノ保管ニ任シ居ルコトヲ茲ニ證明ス  
余ハ更ニ添附ノ記録及ビ文書ガ日本政府ノ公文書ナルコト、並ニ右ガ下記名稱ノ者又ハ一部局ノ公式書類及ビ綴ノ一部ナルコトヲ證明ス(若シアラバ綴番号又ハ引用、其他公式書類又ハ綴ニ於ケル該文書ノ正規所在ノ公式名稱ヲモ特記スベシ)

商工省

千九百四十六年/昭和二十年/十月十八日

東京ニ於テ署名

当該官吏署名欄  
右ノ者ノ公的資格

證人

岡田武彦 (印)  
工務局工政課長(前秘書課長)  
夏井義勝 (印)

公式入手ニ關スル證明

余、エドワード S. H. MOJIMA ハ余が聯合國最高指揮官總司令部ニ關係アリタルコト、並ニ上記題名ノ文書ハ余ガ公務上、日本政府ノ上記署名官吏ヨリ入手シタルモノナルコトヲ茲ニ證明ス

千九百四十六年/昭和二十年/十月十八日

東京ニ於テ署名

氏名欄

Henry Shimajima (署名)

右ノ者ノ公的資格

國際檢察部調査官

證人

Sgt. J. Jopuchli (署名)